

機関番号：17101

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20330196

研究課題名（和文） 自立活動における指導内容体系表の作成に関する研究

研究課題名（英文） Study on systematization of teaching content of Jiritsu-katsudou

研究代表者

猪狩 恵美子（IKARI EMIKO）

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：10403908

研究成果の概要（和文）：本研究は、特別支援教育の中核を成す自立活動の指導について、指導内容の導き方を明確に示して専門性を担保することを目指し、これまでの大学での指導実践事例を基礎にしつつ体系化を行った。特に本研究では、特殊教育での発達モデルのみに基づく捉え方ではなく、特別支援教育での自立・実用モデルを統合した捉え方で体系化を試みた点に独自性がある。今後はさらに体系表を加筆修正していく必要がある。

研究成果の概要（英文）：This study aims to systematize teaching content of Jiritsu-katsudou which constitutes the core of Special Needs Education, based on case studies at Fukuoka University of Education. It was intended to warranty the specialties in Jiritsu-katsudou. The study has originality in an attempt to systematize in aspects of developmental model in Special Education and practical or environmental arrangement model which had been emphasized in Special Needs Education. Further study is needed to revise the table of systematic teaching content of Jiritsu-katsudou.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2009年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
年度			
総計	8,000,000	2,400,000	10,400,000

研究分野：特別支援教育

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：特別支援教育，自立活動，指導内容体系表

1. 研究開始当初の背景

平成19年4月より特別支援教育が本格的に開始されており、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の具体化が求められている。しかし、子どもの実態に応じて、学習指導要領に示された5つの柱にもとづいて指導内容を設定する自立活動は、子どもの状態像に応じた指導が行える反面、学校や教師の力量・考え方によって大きく左右される問題や、指導の系統性が必ずしも担保さ

れない問題を残している。

2. 研究の目的

1のような背景から、これまでに蓄積されてきた個別の支援事例の分析と評価に基づき、一人ひとりの課題に対応し得るよう自立活動における指導内容の体系化を図り、指導項目の精選と順序性を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 福岡教育大学附属特別支援教育センターにおいて過去10年間に各研究分担者が実施した支援記録をもとに、個々の事例の実態と、支援内容・方法を整理する。

(2) 教育委員会、校長会等との連携協力関係を築くとともに、「教育センター」指導主事、特別支援学校教員との研究連絡会を開催し、自立活動の指導計画作成及び評価に関する聞き取り調査を実施するとともに、関連講演会等に参加しての情報収集や、関係専門家による講演の開催、研究協議を行う。

(3) 海外における大学等研究機関と特別支援学校等を視察し、指導の実際について情報収集を行う。

(4) 上記(1)～(3)をもとに、自立活動の指導内容について、学習指導要領に示された5区分22項目と照合させつつ、その下位項目を明らかにし、認識の発達・スキルの獲得のためのステップを明確化することで「自立活動指導内容体系表(試案)」を作成する。

4. 研究成果

(1) 附属特別支援教育センターにおける支援事例を整理して自立活動の指導内容の体系実例を得て自立活動指導内容体系表案作成のための基礎資料とした。

(2) 一方で本研究の開始とともに類似の試みが全国的に同時発生的になされていることがわかった。この背景には、WHOの障害観がICIDHからICFに改訂されたことで、従来の発達モデルにたった指導内容の捉え方だけでは対応できなくなってきたこと、その修正の試行錯誤がなされていることが挙げられた。そのため、他研究機関等の主催する講演等に参加し、情報を収集することで全国的な動向をおさえた。また、学校教育現場でも、特別支援学校の地域のセンター的役割や、実態に合わせて複数の障害に対応するように学校再編が行われるといった情勢を踏まえて専門性の見直しがなされるなか、類似の取組が行われており、自立活動の指導計画作成および評価に関する聞き取り調査を実施した。その結果、現実的には従前の発達モデルにたった指導計画や評価がなされる傾向があったが、少なからずトップダウン的な視点も取り入れられていることが示された。

(3) 海外視察としてアメリカ合衆国・マサチューセッツ州ボストン、英国・イングランドを訪問し、特別支援教育諸学校においてわが国の「自立活動」に該当する指導の現状について情報収集した。いずれも、わが国と異なると、障害の有無によるダブルスタンダードではなく、共通するカリキュラムを基準として特別な教育的ニーズが補完されること・専門職の配置や活用・学級担任の役割の重視が特徴であったが、障害の重い子どもに対する

指導内容・指導方法については個別性・柔軟性が模索されていた。

(4) (1), (2), (3)をもとに、自立活動指導内容体系表の基本的な枠組みを検討した結果、特殊教育での発達モデルのみに基づく捉え方ではなく、特別支援教育での自立・実用モデルを統合した捉え方が求められていると考えられた。そのため、卒業後の自立像からトップダウン的に捉える体系と、発達のみにみてボトムアップ的に捉える体系の両者を踏まえ統合した枠組みを策定した。

(5) 以上をもとに、自立活動指導内容体系表を作成した。今回の作業では、各障害種別にこれまでの本学附属特別支援教育センターにおける支援結果等をふまえ、障害別によく行われる指導に限定して体系表を作成した。

例えば、肢体不自由における体系表では、次のようなカテゴリー・領域を考えた。生活の基盤をつくる[健康管理, 食生活, セルフケア, 安全・危機管理], 自分の生活をつくる[金銭管理, 住まい, そうじ・整理, 買い物, 衣類管理], 自分らしく生きる[自分と障害の理解, コミュニケーションと人間関係, 男女交際と性, 結婚, 育児], 社会参加する[情報, 外出, 働く, 余暇, 社会参加], 自分の権利を生かす[障害者福祉制度, 施設サポート, 地域サービス, 権利擁護, サポート]である。

この中から・全体のカテゴリーとの重複・包含、・プライオリティ(できないと「生活できないか」)、・関連性という視点で、「買い物をする」「働く」「余暇」を取り上げた。

買い物指導の指導内容を例にすると、買い物ができるためには、見通しをもって計画・準備し(必ずしも無くても可能な場合もある)、店へ移動して、店で商品を選び、選んだ商品を運び、レジで買い、商品を持ち帰るといった大きなプロセスからなるといった。このうち「見通しをもって計画・準備できる」段階の指導内容を表に抜粋して示す。

表 買い物の指導内容の体系表抜粋(肢体不自由)

-
1. ※買う物の見通しがある
 - 1-1. ※買う物のメモをとるなど、必要に応じた方略をとることができる
(結果的に適切な店に行ける)
(問いに答えることができる)
 2. 基本的な手順が理解できる
 - 2-1. 店がわかる(概念)
(結果的に適切な店に行ける)
(問いに答えることができる)
 - 2-2. どの店に行けば購入することができるのかがわかる
(結果的に適切な店に行ける)
-

-
- (問いに答えることができる)
- 2-3.家等→店→家等の見通しがある
(結果的に適切な店に行ける)
- 2-4.※店に行って買う見通しがある
用が済んだ時点で家に帰るという見通しがある
(結果的に適切な店に行ける)
(結果的に家に帰れる)
(問いに答えることができる)
- 2-5.移動手段の見通しがある(上記→に相当)
(結果的に適切な店に行ける)
(問いに答えることができる)
- 2-6.店で品物を探し、レジで代金と引き替えに品物を受け取ることが分かる
(上記店内に相当)
(結果的に適切な店に行ける)
(問いに答えることができる)
- 3.場所が理解できる
- 3-1.具体的な店の場所がわかる
(結果的に店までいける)
(どのあたりか説明できる)
- 4.予算配分し、準備できる
- 4-1.「必要なお金」を持って行くことがわかる
(結果的に持って行ける)
- 4-2.「必要なお金」の支払い方法がわかる
- 4-2-1.現金、カードの理解
(結果的に現金やカードを用意できる)
(問いに答えられる)
- 4-3.買える範囲内かを判断できる(結果的に赤字にならずにやりくりできる)
- 4-3-1.必要な所持金の見通しがある
(結果的に適切な金額を用意できる)
(問いに答えることができる)
- 4-3-1-1.目的の品物のおよその価格がわかる
(問いに答えることができる)
- 4-3-1-2.目的の品物全体の金額の概算ができる
(問いに答えることができる)
- 4-3-1-3.必要な交通費がわかる
(問いに答えることができる)
- (4-3-1-1~3)→金銭概念→数概念(教科)
- 4-3-2.使用可能な金額がわかる
- 4-3-2-1.手持ちのお金や貯金の額などがわかる(問いに答えられる)
- 4-3-2-1-1.貯金・預金等の理解
- 4-3-2-2.他の必要経費等がわかる
(問いに答えることができる)
- 4-3-2-3.時間軸上の要因を考慮することができる(月決めなど)
(問いに答えることができる)
- 4-3-2-4.使用可能額から他の必要経費等の差分を計算できる
-

-
- (問いに答えることができる)
- (4-3-2-1-1~4)→金銭概念→数概念(教科)
- 4-4.「必要なお金」を準備できる
- 4-4-1.現金を用意する、必要に応じてATMで現金をおろす、カードを持参することができる(結果的に用意し持参できる)
- 4-4-1-1.ATMの理解
- 5.手順を計画できる
- 5-1.上記基本的な手順のプロセスに、必要に応じて預金を下ろす、何件か店を回るといった項目を位置づけ、手順の具体的な計画を立てることができる
(結果的にできる)
(問いに答えることができる)
- 6.時間配分できる、生活の中で適切に買い物を位置づけられる(結果的にできている)
- 6-1.必要な時間の見通しがある
- 6-1-1.<手順>の計画と自らの経験に基づいて各プロセスがどれくらいの時間がかかり、合計どれくらいの時間がかかるかを計算できる
(問いに答えることができる)
- 6-2.他のスケジュールの見通しがある
- 6-3.買い物と他の用事との優先度を考えて買物をするか否か、するならいつするかを判断できる
- 6-4.バスあるいは電車を利用する場合、混雑する時間帯、時刻を把握して適した路線・車両を判断できる
- 7.品物の運搬方法について判断・準備できる(結果的にできる)
- 7-1.品物の大きさ、量等の見通しがある
- 7-1-1.各物品の認知・概念等
(問いに答えられる)
- 7-1-2.総量の判断
(問いに答えられる)
- 7-2.必要に応じて品物の運搬手段を考え準備、持参できる
- 7-2-1.運搬手段の理解
(問いに答えられる)
- 7-2-2.適切な手段の選定
(問いに答えられる)
-

(6) 今後は実際に本学附属特別支援センターでの支援や連携する特別支援学校における指導のなかで活用し、不十分な点を加筆・修正していくとともに、指導内容領域を拡大しつつ、障害別を統合することを目指していくことが課題である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 24 件)

- ① 太田富雄・相澤宏充・一木 薫・猪狩恵美子 (2011) マサチューセッツ州における特別支援教育—ポストンを中心に—。福岡教育大学附属特別支援教育センター紀要, 査読無し, 3, 63-71.
- ② 大平 壇・一木 薫 (2011) 知的障害のある痙性を伴うアテトーゼ型脳性まひ児における行為を構成する要素としての座位機能の獲得過程—生態学的妥当性からみた姿勢運動指導に関する—考察—。福岡教育大学研究紀要, 査読無し, 60, 133-153.
- ③ 藤金倫徳 (2011) 知的障害児のコンピュータを利用した学習の促進—課題に関連しない行動の強化要素の課題遂行行動への配置—。福岡教育大学紀要, 査読無し, 60, 155-161.
- ④ 氏間和仁・相澤宏充・一木 薫・猪狩恵美子 (2010) 英国における自立活動。福岡教育大学附属特別支援教育センター研究紀要, 査読無し, 2, 55-63.
- ⑤ 小山明子・中村貴志 (2010) 視覚障害児のオリエンテーションに関する指導。福岡教育大学紀要, 査読無し, 59, 85-93.
- ⑥ 樋口陽子・納富恵子 (2010) 知的障害特別支援学校における自閉症生徒の就労支援の取り組み。特殊教育学研究, 査読有り, 48(2), 97-109.
- ⑦ 中山 健・太田富雄・見上昌睦 (2010) 学習障害を主訴にした特別支援教育センター来談者の分析に関する研究。福岡教育大学附属特別支援教育センター研究紀要, 査読無し, 2, 83-93.
- ⑧ 一木 薫 (2009) 自立活動を主として指導する教育課程に関する研究。福岡教育大学紀要, 査読無し, 58, 147-158.
- ⑨ 大江啓賢・小林 巖 (2009) 療育者の働きかけに対する超重症心身障害児(者)の反応に関する検討。日本重症心身障害学会誌, 査読有り, 34(3), 407-414.
- ⑩ 古賀一九子・石坂郁代 (2009) 知的障害児のコミュニケーション能力を高める指導の実践的研究—的確な実態把握と学習ツールの活用を通して—。教育実践研究, 査読無し, 17, 151-158.

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 見上昌睦 (2010. 5. 30) 小学校高学年の重度吃音児に対する指導。姫路市市民会館, 第 36 回日本コミュニケーション障害学会学術講演会.
- ② 石坂郁代 (2009. 10. 12) 発達性 dyslexia の読みの指導—プロセスとその効果—。東京学芸大学, 日本 LD 学会第 18 回大会.
- ③ 大江啓賢・小林 巖 (2009. 9. 21) 重症心身障害児(者)における療育者の働きか

けに対する反応の縦断的分析(第 2 報)。宇都宮大学, 日本特殊教育学会第 47 回大会.

〔図書〕(計 3 件)

- ① 石坂郁代 (2010) 成人例の特徴. 特異的発達障害の臨床診断と治療指針作に関する研究チーム(編) 特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン. 診断と治療社, Pp. 77-79.
- ② 太田富雄 (2009) 第 V 部 第 6 章 聴覚障害児の教育. 太田富雄・富永光昭・平賀健太郎(編著) 特別支援教育の現状・課題・未来, ミネルヴァ書房, Pp. 304-311.
- ③ 太田富雄 (2008) 第 4 章 障害の早期発見・早期教育と両親援助. 太田富雄・中野善達・根本匡文(編著) 改訂版 聴覚障害教育の基本と実際, 田研出版, Pp. 59-72.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

猪狩 恵美子 (IKARI EMIKO)
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 10403908

(2) 研究分担者

相澤 宏充 (AIZAWA HIROMITSU)
福岡教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 70344851
石坂 郁代 (ISHIZAKA IKUYO)
北里大学・医療衛生学部・准教授
研究者番号: 70333515
一木 薫 (ICHIKI KAORU)
福岡教育大学・教育学部・講師
研究者番号: 30509740
氏間 和仁 (UJIMA KAZUHITO)
福岡教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 80432821
大江 啓賢 (OOE HIROKATA)
福岡教育大学・教育学部・講師
研究者番号: 40415584
太田 富雄 (OTA TOMIO)
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 70213733
大平 壇 (OHIRA DAN)
福岡教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 30322283
見上 昌睦 (KENJO MASAMUTSU)
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 30279591
中村 貴志 (NAKAMURA TAKASHI)
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 70292505

中山 健 (NAKAYAMA TAKESHI)
福岡教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：40301329
納富 恵子 (NOTOMI KEIKO)
福岡教育大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：60228301
藤金 倫徳 (FUJIKANE MICHINORI)
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号：60228971

(3) 研究協力者

大谷 久美 (OYA KUMI)
北九州市立門司特別支援学校・教諭
樋口 陽子 (HIGUCHI YOUKO)
北九州市立小倉北特別支援学校・教諭
後藤 宏 (GOTO HIROSHI)
福岡県立筑後養護学校・教諭
村上 博之 (MURAKAMI HIROYUKI)
福岡県立築城養護学校・教諭
森 由美子 (MORI YUMIKO)
米国・ボストン東スクール Student Support
Services / Educational Counselor
ブレンダ マチス (Brend Matthis)
米国レズリー大学・教育学部・准教授